

平成22年度 横浜国立大学大学院国際社会科学研究所  
専門職学位課程 法曹実務専攻（法科大学院）

法学既修者認定試験問題

# 憲 法

配点 100点

時間 90分

※ 試験開始の合図があるまで、  
この問題冊子の中を見ないこと。

以下の2問、問題1・問題2とも解答せよ。

(配点：両問とも50点)

### 問題1

以下のような見解は妥当であるか、猿払事件一審判決（旭川地判昭和43年3月25日下刑集10巻3号293頁）に触れつつ、論ぜよ。

「『LRAの基準』とは、規制の目的を達成するために必要最小限度の手段の選択を要求する比例原則と同種のものであり、『人権の制約は必要最小限度でなければならない』ということの言い換えである。よって、人権制限一般の司法審査基準である。表現の自由の時・場所・態様規制（内容中立規制）における『厳格な合理性の基準』とは、この『LRAの基準』のことである。」

### 問題2

近未来のある年、新たな鳥インフルエンザが猛威をふるい、死者が続出した。政府は、被害を最小限に抑えるため、これに対するワクチンの開発を急ぎ、予防接種を医療関係者、高齢者、幼児、妊婦、未成年者の順に行えるようにし、次いで、全国民が接種可能な数のワクチンの確保に成功した。しかし、感染者数、死者数ともに増加し続けた（2009年のインフルエンザのケースの数倍に達した）ため、国会は、日本国内に住む者全員に予防接種を義務付け、違反者には5万円以下の罰金を科すという法律を成立させた。

Aは、予防接種を拒否したかったが、罰金刑を受けるのは嫌なので、しぶしぶ予防接種を受けたところ、遺伝的な要因で重度の身体障害者となったので、国を訴えた。Aの弁護人は、憲法上どのような主張を行えばよいか、論じなさい（行政法の解釈はここでは問わないが、どのような訴訟類型かを論じる必要はある。また、予防接種とAが重度の身体障害者となったことの間には因果関係が立証されているものとする）。